

登録コード:MH320300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	内部障害の理学療法（含む演習）【20M以降】 Physical Therapy for Cardio-pulmonary and Metabolic Disorder			
担当教員	百瀬 公人 他 小宅 一彰・中村 慶佑			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/3学年 前期 月曜・3時限 月曜・4時限			
単位数、講義室	2 単位	保健学科運動療法実習室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		内部障害について理解し、患者の状態を説明できる	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		内部障害患者の適切な治療を理解し説明できる	
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		内部障害について理解し、患者の状態を説明できる	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		内部障害患者の適切な治療を理解し説明できる	
	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業は、呼吸・循環・代謝系の疾患・障害に対する運動療法を中心としたの理学療法の基本原理と実際についての授業である。まず講義で運動療法が対象とする内科領域の疾患についての基礎的な知識を理学療法の観点から整理し、各疾患における運動療法の方法論を解説する。授業の後半では、内部障害系の運動療法に必要な運動処方についても、実技演習も含めて学ぶ。 本授業は、1年次の「解剖学」、「生理学」、「病理学」、2年次の「内科学」、「理学療法評価学」、「理学療法評価法実習」の知識や技術を前提とし、3年後期の「臨床基礎実習」と4年次の「臨床実習」における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を生かして講義を行います。			
授業計画	第1回（4月13日） 内部障害系理学療法概論 （百瀬） 第2回（4月20日） 気道分泌物除去、呼吸器疾患の理学療法 （百瀬） 第3回（4月27日） 気道分泌物除去、呼吸器疾患の理学療法 （百瀬） 第4回（5月1日） 呼吸器疾患の理学療法 （百瀬） 第5回（5月11日） 呼吸器疾患の理学療法 （百瀬） 第6回（5月18日） 排尿障害の理学療法・腹部画像（百瀬・若田・佐々木・野池） 第7回（5月25日） 心血管疾患の運動療法・胸部画像・心電図（山本） 第8回（6月1日） 心血管疾患の運動療法・胸部画像・心電図（山本） 第9回（6月8日） 糖尿病に対する運動療法 （中村） 第10回（6月15日） 糖尿病に対する運動療法 （中村） 第11回（6月22日） 腎疾患の運動療法・運動処方 （中村） 第12回（6月29日） がんのリハビリテーション （松森） 第13回（7月6日） 血液疾患の理学療法（林） 第14回（7月13日） 運動処方演習 （小宅、中村） 第15回（7月27日） 運動処方演習 （小宅、中村）・授業アンケート 第16回（8月3日） 筆記試験			
授業の進め方	本授業は、内科系疾患・障害の病態及びその発生メカニズムについて講義し、それに対する理学療法についてペアあるいはグループで実習・演習を行う。最後に運動処方の実際を体験し、臨床で内科系疾患・障害あるいはその他の疾患・障害に対して運動療法を遂行する際の評価、目標設定、計画、実行の過程を学習する。 本授業は、1年次の「解剖学」、「生理学」、「病理学」、2年次の「内科学」、第15回は別日程で行う場合がある。			
テキスト，教材，参考書	テキスト 上月 正博 編：新編 内部障害のリハビリテーション 第3版・医歯薬出版 参考書 Mc ARDKLE: Exeercise Physiology 8th ed. LippincottWilliams & Wilkins 奈良 勲 監 内部障害理学療法学・医学書院			
成績評価の方法	出席、個別・グループレポート（運動処方に関する演習）、筆記試験（第16回）を総合的に評価します。 総括的評価の配分は、筆記試験70%、課題レポート（運動処方）30%とし、総得点の60%			

成績評価の方法	以上を合格とします。 筆記試験においては各疾患の評価と治療についての理解を評価します。
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ける、あるいは実技が実施できれば「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価します。 秀(90-100点)：授業の達成目標水準から見て卓越している 実習課題を高度な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 優(80-89点)：授業の達成目標水準よりかなり上にある 実習課題を簡単な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 良(70-79点)：授業の達成目標水準よりやや上にある 実習課題を基礎的知識をもとに論理的に説明できる 可(60-69点)：授業の達成目標水準にある 実習課題を基礎的知識をもとに説明できる 不可(0-59点)：授業の達成目標水準より下にある 基礎的知識を利用できない
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに、次回までに調べておくべき内容、教科書の参考箇所について説明します。 【事後学習について】 毎回、授業の初めに、前回の授業と教科書記載内容に関して質問を行いますから、自己学習内容を加えて授業内容を整理し、「自分の言葉」で解答、説明できるようにして授業に臨んで下さい。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(4時間×15回) + 自己学習時間30時間(2時間×15回) = 90時間 * 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	内部障害の理学療法の授業・演習では、「呼吸・循環・代謝障害」に対する理学療法の基礎知識と、「運動療法」に必要な基本的知識・手技を学びます。毎回、特に演習授業後は、個人のみならずグループでしっかりと復習して下さい。 質問・相談への対応：百瀬 公人 オフィスアワーとメールアドレス： 研究室は南校舎4階です。月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp